

2021年度 和泉短期大学 シラバス

授業科目名	手話		教員氏名	南 玲子					
学年	2年		開講学期	後期					
授業形態	演習		単位数	1単位					
必修・選択	選択		実務経験	手話通訳士	40年				
テーマ	0								
ディプロマ ポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。								
	科目群 I 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する							
	科目群 II 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う							
カリキュラム ポリシー	科目群 III 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける							
	科目群 IV 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う							
	1.名前・住所・趣味・仕事など、一通りの自己紹介ができる程度の手話表現を中心に学ぶ。 2. 幼児保育などの現場に増えてきた手話の歌について、その取り組みと意味を考える。 3.耳栓体験などを通じて、耳の聞こえない方の実生活をおもんぱかる。 4.聞こえないゲストティーチャーの体験談を聞き、実際の姿に触れる。 5.手話通訳制度・システムなど、聞こえない人を取り巻く法律・環境について学ぶ。 6.この授業は、手話による演習のため、基本的に音声は使わない。 7.授業全体を通し、グループワーク・ディスカッションを豊富に取り入れ、コミュニケーションの基礎を体感できる授業を目指します。								
	保育・幼児教育・福祉職を目指す学生たちが、卒業後、耳の聞こえない幼児・児童・保護者などに会った際、手話に対する苦手意識を持たず、心を開いてコミュニケーションが取れるようになること。相手の立場に立って、必要なコミュニケーション手段を工夫できること。また、手話通訳などを依頼しなければならなくなったり、どのような機関に問い合わせればいいか、相談先等の情報が身についていること。								
授業の概要									
授業の到達目標									
テキスト	講師が準備したテキストを、コピーして使用(大泉書店「超カンタン！手話で話そう」本人著)								
参考書	※授業中に、プリントを配布する								
ポートフォリオ									
往還型授業 (双方向授業)	授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする								
	リアクションペーパーを用いて授業内での疑問等を対話形式にて対応する								
	リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理を深める								
	ICT(グーグルクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する								
	その他:								
成績評価方法	区分	割合(%)	内容						
	定期試験	0	実施しない						
	授業内課題 参加度 出席態度等	100	①授業の参加度・態度・手話による発言など、手話に触れ語り合う日々の状況を評価(50%) ②授業内体験実習のレポート提出を求める(20%) ③授業内テストを実施(筆記及び実技／30%)						
	その他	0	なし						
授業概要と課題									

第1回	テーマ 内容	【初めに】手話の基礎。あいさつ。簡単な意思表示方法を学ぶ。全体として音声を使わない授業になるため、その意味・意義も解説。	
	授業外学習	初回に学んだ手話のあいさつ、簡単な意思表示方法は、今後全編にわたって使用されるものになる。次週までに、しっかりと覚えておくことが重要となる。	55分
第2回	テーマ 内容	【名前】自分の名前の手話表現。また、クラスの一人一人違う名前から、単語による様々な表現を知り、他社の名前も表現できるようにする。	
	授業外指示	「自分の名前」表現を、次回までにしっかりと覚えておく。	55分
第3回	テーマ 内容	【指文字】手話の五十音にあたる指文字。単語自体の表現がわからないとき、また、固有名詞などの表現では、指文字はとても便利です。グループでしりとりなどもしながら楽しく学習。	
	授業外指示	指文字は、一度覚えると、様々な場面で役立ちます。ぜひ、次週までにマスターしてしまいましょう。	55分
第4回	テーマ 内容	【住所】「自分の住まい」の都道府県・市町村表現。／【手話の歌】保育や幼児教育の現場で広がる手話の歌への理解と取り組み。ゲストティーチャーを迎える日に披露するため、この日から準備を始める。	
	授業外指示	自分の住所の表現が身につくよう、授業外でも、よく復習すること。	55分
第5回	テーマ 内容	【仕事・学校】将来の仕事や、学校生活にかかわる手話表現。互いの希望職について、尋ねあう会話も。	
	授業外指示	次週までに、仕事や学校にまつわる手話が、楽に手で表現できるよう練習すること。	55分
第6回	テーマ 内容	【趣味】様々な場面で、コミュニケーションを円滑にできるチャンスを広げる趣味の会話。好きな物・事。ジェスチャー表現などの楽しさも体験。手話単語だけにこだわらないコミュニケーションの豊かさにも触れる。	
	授業外指示	「自分や友達の趣味」の表現を、楽しみながら練習しておいて下さい。	55分
第7回	テーマ 内容	【家族】両親・兄弟姉妹など、家族構成の手話表現を学ぶ。互いに家族について、質問し合う会話レッスンも。	
	授業外指示	自分の家族について、手話で表現できるよう、練習をしましょう。	55分
第8回	テーマ 内容	【数字】手話の数字。誕生日・値段・時間など、日常会話で必要な数字の表現。互いの誕生日や、値段を尋ね合うグループワークも。	
	授業外指示	自分の「誕生日」の表現ができるようになります。	55分
第9回	テーマ 内容	【耳栓体験】耳栓をして、学校周辺を歩く。コース内で、グループごとに「声を使わず」コミュニケーションを取って、課題をクリアしていくオリエンテーリング形式のワーク。聞こえない人にとっての集団行動・ディスカッションのあり方を体感する。	
	授業外指示	各自、次週までに、体験をレポートにまとめて提出。	55分
第10回	テーマ 内容	【ろう者ゲストティーチャー】実際に耳の聞こえないろう者講師を招き、実生活の様子や苦労、ろう者ならではの仕事ぶりなどを話していただく。学生たちからも手話の歌を披露したり、積極的に質問をするなどして交流を深める。	

	授業外指示	各自、次週までに「ろう者ゲストを迎えて」の、出会いや感想について、レポートをまとめて提出。	55分
第11回	テーマ 内容	【まとめ】これまで学んだ手話表現のまとめのほか、手話やろう者を取り巻く制度・行政などについての基礎知識を学習。聞こえない方々とのコミュニケーション方法や、テレビや映画の字幕、通信手段などについて、グループディスカッションなども行います。	
	授業外指示	卒業後、聞こえない方々と会った際に必要となる重要な情報を学ぶことになるので、しっかりと頭に入れておくとともに、将来の参考のために、この資料を手元に保管してほしい。	55分
第12回	テーマ 内容	【授業内テスト】①筆記テスト：これまでの学習内容を確認する筆記テストを、授業内で実施。②実技テスト：目標とした手話による自己紹介表現が身についているかを確認する実技テストを行う。(実技テストには、読み取りテストと表現テストがある。)	
	授業外指示	自分の学習成果を把握し、今後の参考にしてください。	55分
第13回	テーマ 内容	【交流会】これまで学んだ手話で、クラス全員による交流会。声なしの手話で行われる。後期の積み重ねが豊かな表現力につながっていることを、学生の皆さんにも実感してもらえると思います。これまでの演習のまとめであり、互いが実際に手話で話す！というチャレンジに。	
	授業外指示	卒業後、聞こえない子供たち・保護者等に会った際、母校で手話の授業があったことを心に留め、いざというときのコミュニケーションの道しるべとしてもらいたい。	55分

課題に対するフィードバックの方法

筆記試験などは、終了後、模範回答を提示する。レポートには、本人の記述にポイントを記入。卒業後、自分の感じたこと、また手話における一般常識などの知識を役立ててもらうため、すべての資料・教材の保存を促す。